

令和7年度

事業計画及び予算書

公益財団法人いばらき文化振興財団

目 次

I 事業計画	1 ～ 14
II 収支予算	15 ～ 19

I 事業計画

基本方針	1
1 公益目的事業1〔公1〕（文化振興事業）	2 ～ 4
2 公益目的事業2〔公2〕（水族館事業）	4 ～ 12
3 収益事業（水族館売店事業）	12 ～ 13
4 法人運営	13 ～ 14

I 事業計画

基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図りもって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。

なお、公益財団法人として公益目的事業を引き続き遂行するとともに、収支の均衡した健全で責任ある経営に努めるものとする。

令和7年度は、県民の自主的・個性的な文化活動の支援をはじめ、参加体験を通した文化芸術の担い手育成や新進演奏家とともに創る文化プログラムの提供等により、県内全域を視野に入れた事業展開で本県の文化振興を図る。

また、「NEW AQUAWORLD」として作り出した様々な新ブランドの継承と、常に新しいことに挑戦し、今までにない「世海」を創出する海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

1 文化振興事業

組織改編による新体制及び中期経営計画策定の2年目として、1年目の振り返りによる課題等を整理し、「文化芸術の継承促進」、「経営基盤の強化による収支改善」、「業務の効率化と生産性の向上」に重点を置いた計画の確実な達成で、持続可能な事業運営を目指す。

2 水族館事業

引き続き「さぁ、新世海！」をタグラインに据え、常に新たな挑戦を行なっていくことで、隣接する県はもちろん首都圏全域での認知度強化を図って常に前年を上回る来場者数の獲得を目指していく。

また、「サメ飼育種類数日本一」をはじめ、展示や繁殖など飼育展示に関わる様々な実績を作り上げ、「サメブランド」のさらなる強化を行なっていく。

1 公益目的事業 1（文化振興事業）

文化振興推進事業

文化活動団体等の創作活動支援をはじめ県内市町村等が目指す文化振興の実現に向けて、財団の文化芸術・舞台公演に関するノウハウの提供や未来を見据えた担い手育成など、県内全域を視野に入れた事業展開により本県の文化振興の発展に寄与する。

ア 文化活動事業費助成事業

県内各地において、創意・工夫を凝らした積極的な取り組みを行っている文化活動団体等に対し、活動成果発表に係る事業費の一部を支援する。

なお、団体等の成果発表を通して文化芸術の魅力を広く発信するため、指導・助言を積極的に行いながら文化活動を支える人材育成や創造性の向上を推進し、県民の豊かな感性と創造性を高める基盤づくりに努める。

<文化活動団体等への助成計画>

項 目	R7 計画	R6 計画
助成交付件数	62 件	43 件
助成交付額	14,678 千円	11,275 千円

- ・ 成果発表の魅力発信強化

活動成果発表時の視察や事業報告書を基にした成果等の精査による団体等への指導助言。

- ・ 成果発表の集客支援

財団オウンドメディアに X（旧 Twitter）等を追加した広報支援の拡充。

- ・ 利便性の向上

24 時間受付対応可能なオンライン申請を活用した、利用者の利便性向上と事務効率化。

イ 文化芸術創造発信事業

各事業の中心となる新進演奏家について、発掘から技術向上、創作活動支援等の事業スキームで人材育成を図るとともに、協働による質の高い創造性豊かな創作作品を提供し、広く県民に文化芸術に興味関心を促し文化振興に努める。

なお、継続事業である「茨城県新人演奏会」及び「県民参加オーケストラ」については、県民との協働割合の増や若手演奏家の人材育成プログラムの追加など、各種取り組みにより魅力を向上させた質の高い演奏会を提供し、文化振興の拡充を図る。

<事業計画>

事業名	実施日	会 場	入場者数
第 51 回茨城県新人演奏会	9/28 (日)	ザ・ヒロサワ・シティ会館 大ホール	500 人
第 51 回茨城県新人演奏会 受賞記念演奏会	12/13 (土)	ザ・ヒロサワ・シティ会館 大ホール	250 人
県民参加オーケストラ 「みんなで楽しむオーケストラ」	2/1 (日)	日立シビックセンター 音楽ホール	700 人
3 事業 (R6 計画：5 事業)			1,450 人

ウ 文化振興マネジメント事業

県内市町村等が目指す文化振興の実現に向け、財団が培ってきた文化芸術に関するさまざまなノウハウを提供し、専門性を有する人材不足解消の一助を担うとともに、協働による企画制作や運営等の事業展開により確実な目的達成と人材育成に努め、本県の文化振興の発展に寄与する。

<事業計画>

県内在住の演奏家を起用した、普及・担い手育成要素を盛り込んだ演奏会の企画制作と運営業務の受託。

常陽藝文センター「Traveling Performance2025-2026」(7 公演×2 シーズン)

エ アウトリーチ事業 (文化芸術体験出前講座)

文化活動団体等の高齢化や実演者の減少が進む中、担い手の確保と文化芸術の継承を重要課題と捉え、新進演奏家や文化活動団体等を活用した様々な文化芸術に接する講座を提供し、課題解決につなげる。

なお、県内の小中高等学校等に講師を派遣し、参加体験を通し文化芸術の魅力を発信する「文化芸術体験出前講座」に日本の伝統音楽の魅力発信と継承を目的に、夏休み期間に親子を対象に楽しく学べる講座「音楽ワークショップ」を追加し、事業全体の充実を図る。

<事業計画>

区 分		R7 計画	R6 計画
文化芸術体験出前講座	学校枠	127 講座	134 講座
	一般枠	5 講座	3 講座
	計	132 講座	137 講座
音楽ワークショップ (新規)		4 講座	—

<文化芸術体験出前講座プログラム>

区 分		内 容
音 楽	管楽器、弦楽器、打楽器、声楽、邦楽器 他	音楽鑑賞、楽器演奏体験等
美 術	絵画、書道、陶芸、リボン・アートボール	技法・技術指導、作品制作等
伝統文化	茶道、華道	お点前体験等
能 楽	—	能楽鑑賞、体験（謡・舞・太鼓）等
食文化	—	郷土料理の講和、調理体験等

オ 助成金等を活用した持続可能な事業運営

公的助成金（文化庁、地域創造、日本芸術文化振興会 他）や企業協賛金等を活用し、事業経費の負担を抑えた適切な入場料金を設定し、多くの県民が鑑賞できる機会を提供することにより、収支均衡を図った持続可能な事業運営に努める。

2 公益目的事業 2（水族館事業）

（1）水族館の運営

令和 6 年度は、前年度(令和 5 年度)に GW や夏期等の「繁忙期」の後に来館者数が低迷する事象が発生したことを踏まえて、繁忙期後の事業にも注力した結果、大きな成果を残すことができ、開館以来歴代 2 位の入館者数を記録した。

令和 7 年度については、同様の手法をとりつつも、タグライン「さあ、新世海！」に基づき、さまざまな新たな取り組みを行うことで、認知度の向上とブランドの定着を図り、令和 6 年度以上の入場者数の確保を目指していく。

当館のキラーコンテンツである「サメ」を引き続き強く発信し、他施設との差別化を図ることで、ブランドのさらなる定着化を図るとともに、各季節で水族館本来の生き物を題材とした魅力あるイベントを実施し集客を図っていく。過去 2 年間好評であった IP コンテンツとの異業種コラボについては、これまでの集大成と位置づけ、さらに魅力を向上させた第三弾を実施する。3 月には「サメ」に次いで好評なコンテンツである「オーシャンライブ」の昼夜全面リニューアルを行うほか、ナイトライブのリニューアルに合わせて「NIGHT AQUAWORLD」を全面的にリニューアルするとともに、「スーベニアショップ モラモラ」も併せて店舗のリニューアルを行う。

イベント実施時に不可欠なプロモーション活動については、季節ごとに個別に発注・実施するのではなく、年間を通した委託による一貫した戦略に基づいた効果的・効率的なプロモーション活動を新たに取り入れる。

令和 7 年度においても、楽しみながら学べる社会教育施設として、質の高い展示・催事を行うことで、魅力的な施設づくりを一層強化し、地元で愛され県民が誇れる水族館を目指していく。

項 目	R 7 計画	R 6 計画	増減
一 般	727,933 人	736,235 人	△8,302 人
団体等	262,992 人	231,692 人	31,300 人
ナイト	14,890 人	12,700 人	2,190 人
年間パスポート	28,160 人	28,017 人	143 人
有料入場者計	1,033,975 人	1,008,644 人	25,331 人
年間パスポート 2 回目以降	98,160 人	101,008 人	△2,848 人
有料入場者計②	1,132,135 人	1,109,652 人	22,483 人
無料入場者	108,357 人	107,120 人	1,237 人
総入場者数	1,240,492 人	1,216,772 人	23,720 人

(2) 飼育展示事業

基本テーマ「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に基づき展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内外に棲息する水生生物について調査・研究を行い、それらを通して自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての一翼を担う。

ア 魚類展示

お客様、飼育生物、スタッフの安心・安全を第一に考え、水族館の4つの目的に沿って「既存施設・展示の魅力度アップ」、「サメブランドの強化」、「新規生物の収集・導入」を実施する。これらをもとに各種イベントと連動し、話題提供・情報発信に努め、リピーターだけでなく新規顧客の開拓を狙う。

また、「DX 導入」による業務効率の改善を行うとともに、飼育展示技術の開発、継承・人材育成を図る。

① 展示手法の見直し・改修による魅力度アップ

生物の魅力をより伝えられる展示手法を改善するとともに、経年劣化した水槽の補修・リフレッシュを図り、展示効果を高める。なお、館内の魚名板や展示解説のデジタルサイネージ化を進め、常設展示の魅力度向上を目指す。

イベントの連動も考慮し、IWASHILIFE の期間限定演出プログラムの作成などリピーターの満足度を向上させる展示を実施する。

また、今後の改修に備え、デジタルマッピングなどの演出導入も視野に入れ、情報収集も実施する。

② サメの繁殖研究・展示

シロワニの安定した継続繁殖を中心に、サメ類の繁殖・育成に関する研究をさらに推し進めるとともに、外部研究機関との協力体制の構築も視野に入れる。なお、研究から得た知見は展示等により積極的な情報発信を行う。

また、新規種の導入のためのフィールド調査・入手ルートの情報収集も継続し、「サメブランド」の強化に努める。

③ フィールドでの生物収集・新規生物の収集

定期的に県内乗船収集等を行い、収集した生物を用いて季節感のある展示を目指すとともに、マンボウ・サメの補充と茨城県産魚類の調査研究を継続実施する。

なお、県内で収集が難しい深海生物に関しては、高知県室戸周辺や駿河湾での収集調査も実施し、補充だけでなく新規展示種の導入を目指す。

また、ウミガメ類の産卵調査やストランディング調査などの自然保護活動も継続し、展示などで啓発活動を行う。

④ DX の導入による業務の見直し

飼育日誌をデジタル化することにより飼育情報の蓄積と整理に関する業務を簡素化し、水槽整備作業や飼育生物の体調などの情報共有を安易にすることを目指す。これを皮切りに展示へも活かせるように、DX 導入による業務の見直しを行う。

⑤ 人材の育成

日常業務はもとより、生物の採集や輸送、調査・研究等において技術継承を図り人材の能力を高める体制を構築する。

イ 海獣展示

屋外リニューアル後に開始した各種プログラムを継続しつつ、季節や来館者のニーズ、館内で開催中のイベント等に合わせたプログラムへと随時内容を更新する。なお、リピーター確保の観点から、動物の解説や解説板の内容も随時更新し、何度来ても新鮮な驚きや発見がある、動物たちの「今」を伝えられる展示・解説を目指す。

① 可変性あるオーシャンライブの運営とデイ & ナイトライブのリニューアル

若齢個体のトレーニングが進みつつあり、安定したライブ出演が可能となっている。このため、昨年同様、季節により可変性あるオーシャンライブを企画するほか、3月に通常デイライブとナイトライブを同時リニューアルし、次年度に向けた集客の目玉とする。昨年度初めて夏ライブに導入した「アシカの水中種目」や秋遠足時の「レクチャーライブ」についても、内容を更新しつつ継続実施していく。

② 飼育動物の健康管理の強化

各動物のカルテの電子化や飼育日誌のデジタル化を進めることで、効率的で効果的な動物の健康管理をすすめる。なお、診療技術向上のため、研修会等には積極的に参加するとともに、診断に必要な機器類についても充実を図る。また、全動物種に関してハズバンダリートレーニングを強化し、予防的処置への対応力向上を図る。

③ 鯨類の繁殖への取り組み

令和6年3月に出産したバンドウイルカについては、母子ともに健康状態もよく、7年度は一般へのお披露目に向けて各種トレーニング等を開始する。令和7年3月以降に出産予定のバンドウイルカについては、出産環境を整え、仔獣安定飼育を目指す。令和6年度にも前年度に引き続き、当館のバンドウイルカのオス個体から採取した精子を用い、新江ノ島水族館で人工授精を行ったが、今後も他園館と協力し

て人工授精に積極的に取り組むため、採精・精液の希釈・凍結保存までの一連の技術の確立を目指す。

④ 「なごみの海」ゾーンの魅力度アップ

「なごみの海」ゾーンの動物 3 種（エトピリカ、ゴマフアザラシ、カナダカワウソ）は、特に大人の来館者からの人気が高く、SNS などでの注目度も高い。1 日 2 回のもぐもぐタイムも休日には水槽前がいっぱいになる人気ぶりであるが、観覧できるスペースには限りがあり、声は聞こえても動物の姿は見えないという状況が発生している。このため後方からでも動物が良く見えるようにモニターを設置し、さらに動物をアップで映せる飼育員装着型の小型カメラを導入し、もぐもぐタイムの魅力度アップとともに、もぐもぐタイムの時間以外にも観覧通路側のモニターを使用した水槽内のライブ配信を行うことで、水槽そのものの魅力度アップを目指す。

⑤ 動物の自然繁殖推進

フンボルトペンギン、エトピリカについては、個体数の安定が図れているため、自然繁殖を継続しつつ、遺伝的に健全な個体群管理のため、他園館との個体交換などによる血統更新を目指す。

カリフォルニアアシカ、ゴマフアザラシについては、令和 6 年度に若齢個体を導入し繁殖の可能性が広がっていることから、ペア飼育の相手を替えつつ自然繁殖推進を継続する。

カナダカワウソについては、ペア飼育の相手を入れ替えつつ、当館初繁殖を目指すとともに、新規導入個体の情報収集も開始する。

鯨類については、令和 6 年 3 月生まれと令和 7 年春に誕生予定の仔獣の成長を見つつ、今後の繁殖計画を見直す。

ミナミアメリカオットセイについては、雌個体の育児に不安が残るため、人工保育の情報収集を進め、今後の繁殖計画を見直す。

⑥ ペンギン・カワウソのふれあいプログラムに向けた訓練強化

フンボルトペンギンについては、写真撮影等のふれあいプログラムに参加できる馴致個体を確保するため、計画的な人工育雛を継続する。

カナダカワウソについては、体への接触や人に対する脱感作を行うほか、写真撮影に向けた器具への脱感作も併せて行い、ふれあいプログラムへの参加を模索する。

⑦ 柔軟なショー運営とオーシャンシアター案内の内製化

ショー運営については、イベント等に対応して柔軟に内容や開催回数を変化させるほか、シアター内の案内業務を引き続き海獣展示課職員で担当することにより、CS（顧客満足度）の向上を図る。

ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から受託した水系展示水槽の適切な管理を行うとともに、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を行う。

(3) 教育普及事業

生き物や環境等について学ぶ「社会教育及び生涯学習の施設」としての目的を果たすとともに、来館者の満足度アップに努め、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる自然体験塾やレクチャー、展示解説等の充実を図る。

なお、学校を対象とした事業においては、コロナ禍で普及した Web 会議を利用した来館前の事前授業を実施することで、学校関係の誘客・利用促進を図る。

ア 発見体験学習の実施

事前募集型の「自然体験塾」は、人気のある講座、特徴のある講座を 15 講座 23 回実施し、誰もが気軽に参加できる内容とする。

主な周知等はホームページとするが、SNS も活用し、情報の周知及び参加者数増に努める。

なお、応募方法については、従来の往復はがきでの応募を、本年度より Web 化し、利便性の向上を図る。

イ レクチャー及び展示解説の実施

例年好評で参加率も高かった「水族館バックヤードツアー」を継続実施し、参加者の満足度アップと収益の確保に努めるとともに、季節イベント等と連動し学習的要素を含んだ付帯事業を取り入れ実施する。

ウ 機関紙「Sea 遊」の発行

情報発信及び教育普及等を目的とした、機関紙「Sea 遊」を年 2 回（6 月、12 月）発行し、県内及び栃木県の小中学校ほか、県内図書館等へ配布を行う。なお、学校や公民館等の統合があれば、配布先の見直しを随時行っていく。

エ シャークダディズルームの運用管理

サメをテーマとした「シャークダディズルーム」は、通常の運用のほか、教育普及プログラムや催事等において最大限利活用し、当館の魅力向上の寄与に努める。また、飼育研究で蓄積した資料を活用した展示変更の検討を継続する。

オ 自然教室等への講師派遣

学校教育機関等から水生生物や環境等をテーマとした講師派遣依頼については、積極的に対応するとともに、Web 会議システム等を活用したリモートでの講師派遣にも対応していけるよう努める。

カ 実習生・研修会等の受入れ

主に中・高校生の職場体験、大学生、専門学校のインターンシップ・飼育実習などの依頼に対し、柔軟な受入れを行う。

キ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」との連携を深め、ボランティア自身が展示物と来館者との仲介役となり、来館者へ

の学びの機会の提供を行う。なお、SDG s の取り組みにも積極的に参加し、理解を深めるよう努める。

ク SDG s の取り組み

サステナビリティアクション（SDGs17 の目標）に基づき課題検討、活動報告等の共有を行うとともに、各課の SDGs に関する方針や活動計画の策定と実施、進捗の共有を行う取り組みを推進していく。

（４）誘客促進事業

県内外はもとより、海外（インバウンド）からの集客を図るため、季節を感じさせるイベントや I P とコラボしたイベントを 1 2 本開催するとともに、それらイベントに合わせた特設水槽の展示、人気キャラクターを使用した展開により話題提供を図り、「飽きさせない、何度でも来館したくなる水族館」の運営に努める。

なお、Web チケットの積極的な活用を継続し、利便性の向上及び入場時の円滑化を進めるとともに、販路拡大を視野に入れ、コンビニエンスストア等のチケット販売にも注力する。

また、インバウンド誘致強化のため、茨城県や大洗町と連携し、現地での旅行業者向けの営業活動を実施するとともに、昨年度末、インバウンドコンテンツ造成支援事業補助金を活用して整備した翻訳ディスプレイ等を活用し、外国からの来館者への利便性を高めながら、海外からも注目される運営に努め、インバウンド客の増を図る。

近隣ホテル宿泊者への利用促進や旅行代理店によるツアー企画（公募型）、ユニークベニユーの団体向け誘致拡大など、常に新しい商品や話題提供を行い、年間を通した誘致活動を強化していく。

昨年度、新たに導入したラーケーション特割は、茨城県教育委員会の趣旨に沿った対応を図り、ラーケーション活動を応援するとともに、大洗町及び各観光施設とも連携し、情報共有を図りながら、一丸となって本県全体への観光客誘致に努める。

プロモーション活動は、タグライン「さぁ、新世海！」のもと、広報・宣伝・オウンドメディアの各分野で従来の手法だけでなく新たな手法にも積極的に取り組み、効果の最大化を目指していく。

マーケティング調査においては、顧客動向や顧客満足度の分析精度向上のため、数多くのデータを取得することを目指す。

ア イベント

年間を通して切れ目なく催事を開催し、話題提供に努めるとともに誘客促進を図る。

具体的には、春休みまでを「超サメ展」で盛り上げた後、GW 前にかけて例年入館者が落ち込むことから「たまごアクアワールド・大洗 2 0 2 5（仮称）」を開催（5 / 6 まで）し、入場者の増加を図る。その後、七夕、サマー、クリスマス、新春等の季節イベントを効果的に開催するほか、人気の「すみっコぐらし」とのコラボイベントを夏休み期間等に加えることにより、なお一層の誘客につなげる。

一方、閑散期対策として、9 月下旬から「外来種」をテーマとした企画展を開催し、2 月からは、「ネコザメ等」をテーマとしたイベントを開催する。

夜間営業「NIGHT AQUAWORLD」については、繁忙期（3 連休）等を除く毎週土

曜日に実施し、昼間の営業と違った「可変性」を利用者へ伝えることにより、夜の魅力発信に努め、利用促進を図る。今年度は、ハロウィン、クリスマス、バレンタイン等、特別な演出効果による「特別版 NIGHT AQUAWORLD」を年4回以上実施する。

イ プロモーション

今年度も、タグライン「さぁ、新世海！」を継承し、新しいことにチャレンジしていく姿勢をアピールしていく。

昨年度に制作し好評を得た新総合ビジュアル「サメがすごい。けどサメだけじゃない。」は、施設のキラーコンテンツである「サメ」はもちろん、他のコンテンツについてもアピールできるものとして、引き続き使用するとともに更なる発展的展開も視野に入れていく。

施設のプロモーションについては、これまで季節ごとに個別に取り組んできたが、年間での一括した委託契約を行い、一貫性ある戦略的な展開による訴求力強化・効果の最大化と経費の効率的な使用による費用対効果の向上を図る。

「メディアファミリーご招待キャンペーン」については、招待先を旅行代理店関係者等にも拡大し、商品造成に結び付ける。

オウンドメディアによるプロモーション活動については、ホームページ閲覧者の8割以上がスマートフォン利用者であることを踏まえ、最適化しながら情報へアクセスし易いサイトづくりを心掛けていくとともに、SNSにおいては話題性ある生物の魅力・イベントを用いて、ファンづくりとメディアミックスに繋がる情報発信を行っていく。

メディアへの情報発信については、引き続きWebに比重を置いたPRを続けていく。

ウ マーケティング調査

昨年度に引き続き、来館者を対象にWebを活用したアンケート調査を実施するとともに、Webチケット購入者のアンケートと合わせることでデータ取得数を増やし、顧客動向と顧客満足度の2つの分析精度を向上させながら、プロモーション活動に結び付けていく。

エ オペレーション

Webチケットについては、入場口混雑の緩和、オペレーションの簡略化の観点から導入を継続し、また販売ページ上での選択肢を増やす意味で様々なチケットプランを造成する。販路拡大のためコンビニエンスストアを利用したWeb販売の拡充も視野に入れる。なお、企業連携や近隣宿泊施設等とのセットプランについても、電子チケットのノウハウを活かし、順次非接触・電子化を進めることで、業務の効率化を進める。

年間パスポートについては、特典を付けたキャンペーン及びイベントと連動した特別デザインのパスポートを発行し、新規購入者の増加につなげるとともに、リピーター確保に努める。

また、自動ゲートを十分に活用するためにも、各種割引や預託券等の整理を行い、省力化に努めるとともに、館内マップ等の配布物に関しても電子化を進め、経費の節減・省力化を実現する。

オ セールス

旅行業者や宿泊施設との連携強化を図り、新たな商圏内の団体を確保するため、誘致活動を積極的に行っていく。

近年、減少傾向にある学校団体（遠足）については、学校バックヤードツアー等、学習的要素を充実させた誘致を図り、幼稚園・保育園など低年齢の団体については、生物への興味、愛着等を持ってもらえるような案内に努め、新規団体の確保等、より一層の誘致を図る。

インバウンド関係は、定期的な送客が見込める台湾を中心に、送客可能な旅行業者を増やすため、割引等による誘致活動を積極的に行う。また、台湾については、茨城県との連携により、現地にて旅行業者向けの営業活動を実施し、ニーズの把握・商品造成を行う。

企業契約については、福利厚生での利用を促進し、預託券の販売・企業向けの割引キャンペーン・福利厚生アウトソーシングのキャンペーンへの参加により利用増を図る。

（５）管理運営部門

経営改革を継続しウィズコロナの社会における既存事業の変革による強化のため、コロナ禍で進んだ価値変容や行動変容を促進するとともに、損益分岐点を引き下げ、筋肉質な運営を図る。

ア 業務効率化

D X の導入により、事務局と連携しながら、データ管理の一元化に向けた検討や決裁手続きの電子化等、事務効率化の更なる簡素化への取り組みに努める。

イ 職員満足度（E S）面の改善

働き甲斐のある職場環境の改善に努めるほか、業務効率の簡素化等を行いながら、業務のスキルアップを図り、年次有給休暇の取得や時間外勤務の削減等を推進する。

ウ 労務管理への取り組み

ハラスメントの撲滅のため、毎月開催するコンプライアンス委員会での問題意識の取り組みを推進し、正しい労務管理の強化を図る。また、働き方改革の意識を浸透させ、業務改善を意識した日常業務に取り組みながら、法令遵守の徹底を図る。

エ 金銭事故防止などの管理体制強化

現金等の金銭事故防止などのセキュリティの管理体制の強化を図り、オペレーションの見直しや個人のスキルアップにより、よりスピードアップした管理体制の構築を図る。また、当たり前の事を確実に取り組む職場の風土づくりの徹底による職場環境の整備を図る。

オ 組織体制の構築

報告・連絡・相談の当たり前の確認事項を怠ることなく、課題を的確に捉え、各課との緊密な連携の強化の精度を高め、One Team で業務遂行する組織体制を構築する。また、内部統制の強化を図り、組織としての熟成を目指し、多様性のある持続可能な水族館を確立する。

カ 人材育成

人材育成の強化を図るため、更なる成長として、CSやハラスメント、労務管理、キャリアアップ研修など、財団事務局とも連携しながら、様々な研修の充実に努める。またコストコントロールを意識した、スピードアップできる業務の取り組み方を推進するほか、サステナビリティの戦略を具現化し、事業貢献に繋がる施策ができるよう、ダイバーシティの取り組みも推進していく。

キ 施設設備の計画修繕対応

安全安心を最優先し、ハード面（施設修繕等）の整備に努め、経年劣化による腐食や老朽化の整備はもとより、維持管理、景観美化への維持管理を図るとともに、効率的なバリューアップ投資を行い、新たな付加価値を付けながら、魅力向上に寄与する取り組みを行う。

項 目	金額 (千円)
1. 屋上防水改修工事（第3期）	27,556
2. オーシャンタワー外壁タイル改修工事	44,827
3. 受電操作・自家発電蓄電池更新工事	7,920
4. 熱交換器更新工事（第2期）	19,910
5. ブラインチラー更新工事（第2期）	175,364
6. 上水受水槽改修工事	45,872
計 6 件	321,449

3 収益事業1（水族館売店事業）

地域観光振興を担う拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイス物販部門「スーベニアショップ モラモラ」及びシャークダディズルーム内の「コレクターズショップ ガレオス」、「リラックスカフェ マーメイド」の運営を行う。

運営にあたり、SDGsで掲げられている海の豊かさを守る活動の一環として、プラスチック類の削減等社会的役割を果たすほか、フードロスにも力を注ぐ。主な取り組みとして、環境に配慮した有料レジ袋の推進やサステナブルバックの販売、ガチャプラスチックカプセルの有効利用、プラスチック製食器類の見直しを行い、自然環境へ配慮した運営を目指す。

（1）「スーベニアショップ モラモラ」の運営

当館オリジナルの商品開発を進めるほか、館内イベント等に関連した商品を展開し、販売促進に努める。また、話題性のあるキャラクターとのオリジナルコラボ商品の展開や、環境に優しい商品などを提供し、集客に結び付く店舗運営を目指す。

また、今年度のリニューアルに向けた什器選定やPOSレジ更新を行う。

（2）「コレクターズショップ ガレオス」の運営

館内有料ゾーンにある店舗ならではの専門性のある商品構成や、店舗名である「サメ」及び「クラゲ」に特化したオリジナル商品を取り揃え、他にはない店舗を目指す。なお、

店舗雰囲気に合わせて、落ち着いた大人向けの高品質・高付加価値商品を揃えることにより商品単価アップを図る。

また、エアくじ販売を継続し、現行商品もリニューアルすることにより、利用率を高め更なる収入増を目指す。

(3)「リラックスカフェ マーメイド」の運営

館内にあるカフェの役割として、イベントに合わせたオリジナルメニューを展開するほか、地元食材を取り入れた季節感のあるメニュー構成やここでしか食べる事の出来ないメニューを提供し、顧客満足度の向上を図る。商品メニュー構成により、都度オペレーションの見直しを行い、商品提供時間など利便性を高める。

また、SDGsの取り組みとして脱プラスチックを推進するとともに、イベント等で余った食材を利活用したメニューを考案し環境問題への取り組みをアピールする。

さらに、今年度のPOSレジ更新に向け、オペレーションを検討する。

4 法人運営

・経営基盤の強化

公益目的事業の充実並びに財政基盤及び経営基盤の強化を目的に、昨年度からスタートした新事務局体制のもと、県全域での文化振興事業の充実を図るとともに、マーケティング戦略の強化や地域コミュニティとの連携強化を図り文化振興部門の収支の安定化を目指す。

また、文化施設の指定管理者受託に関する情報収集を行い、内部検討会の開催により今後の対応方針を決定するほか、水族館の大規模修繕及び開館25周年に向けて自主財源を確保することにより施設のハード・ソフトの魅力を高め、来館者数の一層の増加につなげる。

・DXによる業務効率化の推進

昨年度に立ち上げた財団横断推進チームを中心に現行システムの検証を行い、その結果を反映させつつ、新システム導入に向けた業務の整理と導入準備を進めるなど、より少ない手順で最大の効果が得られるよう取り組む。

・事業継続・拡大を図るために必要な人材育成・環境整備

業務の棚卸を行い、タイムマネジメントを推進することで時間外労働の縮減を図り、職員の働きやすい環境を整備する。また、将来に向けて柱となる財団の人材育成方針を策定し、財団独自の階層別職員研修体系の構築を準備することで、職員のスキルアップとキャリア形成を支援する。

・コンプライアンスの遵守

コンプライアンスガイドラインを周知徹底し、事業所コンプライアンス委員会及び事務局職員からの聞き取りを行うことで課題を整理し、適切な対策を講じる。

- ・ 環境への配慮

環境への配慮を重視し、既に設定した水族館部門に引き続き、SDGs に基づく優先課題を設定し、文化振興部門の SDGs ポリシーを策定し具体的な取り組みを進める。

- ・ 公益法人制度改正に伴う対応

令和 7 年 4 月 1 日施行の改正公益認定法に対応するため、移行準備を進める。法改正に伴う必要な変更を行い、適切な運営を確保する。

Ⅱ 収 支 予 算

- 正味財産増減予算書（損益ベース） 15 ～ 16
- 正味財産増減予算書（損益ベース）内訳書 17 ～ 18
- 資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書 19

令和7年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産等運用益	312	312	0
基本財産等受取利息	312	312	0
② 特定資産運用益	8,446	2,563	5,883
退職給付引当資産運用益	1,890	572	1,318
積立資産運用益	6,556	1,991	4,565
③ 事業収益	3,021,733	2,937,246	84,487
自主公演入場料収益	2,830	9,560	△ 6,730
受託公演委託金収益	59,246	51,873	7,373
自然博物館水系展示水槽 管理委託金収益	19,138	18,472	666
水族館入場料収益	1,897,349	1,850,689	46,660
売店収益	1,040,170	1,006,652	33,518
協賛金収益	3,000	0	3,000
④ 受取補助金等	46,531	45,424	1,107
受取県補助金	2,000	2,000	0
受取財団運営費補助金	38,531	35,724	2,807
受取助成金	6,000	7,700	△ 1,700
⑤ 雑収益	79,593	74,565	5,028
雑収益	79,593	74,565	5,028
⑥ 指定正味財産からの振替額	80,000	0	80,000
経常収益計(A)	3,236,615	3,060,110	176,505
(2) 経常費用			
① 事 業 費	3,051,695	3,013,949	37,746
文化活動団体等助成金	14,678	11,275	3,403
役員報酬	12,538	12,107	431
給料手当	545,780	536,014	9,766
臨時雇賃金	7,861	10,185	△ 2,324
福利厚生費	6,685	6,580	105
法定福利費	89,020	85,706	3,314
報償費	12,959	12,948	11
旅費交通費	6,993	6,595	398
接待交際費	60	60	0
消耗品費	74,120	73,796	324
燃料費	64,860	63,581	1,279
会議費	1,202	1,061	141
印刷製本費	11,146	11,608	△ 462
光熱水料費	246,303	296,104	△ 49,801
修繕費	24,165	31,391	△ 7,226
飼料費	41,338	40,674	664
医薬材料費	2,876	2,320	556
賄材料費	49,010	44,368	4,642
通信運搬費	3,402	3,276	126
広告宣伝費	4,954	27,444	△ 22,490
支払手数料	121,693	119,975	1,718
保険料	1,185	1,127	58
委託費	627,133	574,036	53,097
賃借料	34,068	34,977	△ 909

(単位:千円)

科 目		当 年 度	前 年 度	増 減
	工事請負費	21,774	15,067	6,707
	原材料費	546,598	542,372	4,226
	生物購入費	14,742	11,640	3,102
	支払負担金	4,787	5,720	△ 933
	租税公課	89,425	93,404	△ 3,979
	退職給付費用	31,369	27,034	4,335
	雑 費	20	20	0
	修繕工事負担金	321,449	299,280	22,169
	県納付金	0	0	0
	減価償却費	17,502	12,204	5,298
②	管理費	18,684	16,309	2,375
	役員報酬	1,610	1,538	72
	給料手当	2,402	3,322	△ 920
	臨時雇賃金	0	0	0
	福利厚生費	153	229	△ 76
	法定福利費	539	663	△ 124
	報償費	0	0	0
	旅費交通費	552	453	99
	接待交際費	20	20	0
	消耗品費	730	1,178	△ 448
	燃料費	60	60	0
	会議費	14	14	0
	印刷製本費	514	612	△ 98
	光熱水料費	220	300	△ 80
	修繕費	200	50	150
	医薬材料費	0	0	0
	通信運搬費	437	436	1
	広告宣伝費	0	0	0
	支払手数料	320	855	△ 535
	保険料	588	215	373
	委託費	5,905	1,048	4,857
	賃借料	1,766	2,599	△ 833
	支払負担金	1,041	1,152	△ 111
	租税公課	68	73	△ 5
	退職給付費用	1,307	1,482	△ 175
	雑費	0	0	0
	減価償却費	238	10	228
経常費用計(B)		3,070,379	3,030,258	40,121
当期経常増減額(A)-(B)		166,236	29,852	136,384
2	経常外増減の部			
(1)	経常外収益			
	固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計(C)		0	0	0
(2)	経常外費用			
①	固定資産除去損			
	固定資産売却・除却損	0	0	0
経常外費用計(D)		0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)		0	0	0
当期一般正味財産増減額		166,236	29,852	136,384
一般正味財産期首残高		2,198,096	2,168,244	29,852
一般正味財産期末残高		2,364,332	2,198,096	166,236
II	指定正味財産増減の部			
①	一般正味財産への振替額	80,000	0	80,000
当期指定正味財産増減額		△ 80,000	0	△ 80,000
指定正味財産期首残高		565,000	565,000	0
指定正味財産期末残高		485,000	565,000	△ 80,000
III	正味財産期末残高	2,849,332	2,763,096	86,236

令和7年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書内訳表
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計		法人会計	合 計
	公1 文化 振興 事業	公2 水族 館事 業	小 計	収1 水族 館売 店事 業	小 計		
I 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産等運用益	312	0	312	0	0	0	312
② 特定資産運用益	3,204	4,319	7,523	847	847	76	8,446
③ 事業収益	65,076	1,916,487	1,981,563	1,040,170	1,040,170	0	3,021,733
自主公演入場料収益	2,830	0	2,830	0	0	0	2,830
受託公演委託金収益	59,246	0	59,246	0	0	0	59,246
自然博物館水系展示水槽管理委託金収益	0	19,138	19,138	0	0	0	19,138
水族館入場料収益	0	1,897,349	1,897,349	0	0	0	1,897,349
売店収益	0	0	0	1,040,170	1,040,170	0	1,040,170
協賛金収益	3,000	0	3,000	0	0	0	3,000
④ 受取補助金等	10,636	17,638	28,274	0	0	18,257	46,531
受取県補助金	2,000	0	2,000	0	0	0	2,000
受取財団運営費補助金	2,636	17,638	20,274	0	0	18,257	38,531
受取助成金	6,000	0	6,000	0	0	0	6,000
⑤ 雑収益	225	60,503	60,728	18,514	18,514	351	79,593
雑収益	225	60,503	60,728	18,514	18,514	351	79,593
⑥ 指定正味財産からの振替額	80,000	0	80,000	0	0	0	80,000
経常収益計(A)	159,453	1,998,947	2,158,400	1,059,531	1,059,531	18,684	3,236,615
(2) 経常費用							
① 事業費	98,271	1,921,259	2,019,530	1,032,165	1,032,165		3,051,695
文化活動団体等助成金	14,678	0	14,678	0	0		14,678
役員報酬	3,035	8,249	11,284	1,254	1,254		12,538
給与手当	29,090	402,043	431,133	114,647	114,647		545,780
臨時雇賃金	751	2,764	3,515	4,346	4,346		7,861
福利厚生費	477	5,023	5,500	1,185	1,185		6,685
法定福利費	5,363	65,008	70,371	18,649	18,649		89,020
報償費	12,899	60	12,959	0	0		12,959
旅費交通費	961	5,408	6,369	624	624		6,993
接待交際費	0	60	60	0	0		60
消耗品費	2,203	44,032	46,235	27,885	27,885		74,120
燃料費	178	56,241	56,419	8,441	8,441		64,860
会議費	327	674	1,001	201	201		1,202
印刷製本費	790	7,735	8,525	2,621	2,621		11,146
光熱水料費	0	214,284	214,284	32,019	32,019		246,303
修繕費	0	22,468	22,468	1,697	1,697		24,165
飼料費	0	41,338	41,338	0	0		41,338
医薬材料費	0	2,502	2,502	374	374		2,876
賄材料費	0	0	0	49,010	49,010		49,010
通信運搬費	394	2,204	2,598	804	804		3,402
広告宣伝費	319	4,635	4,954	0	0		4,954
支払手数料	1,148	64,619	65,767	55,926	55,926		121,693
保険料	0	840	840	345	345		1,185
委託費	15,645	528,641	544,286	82,847	82,847		627,133
賃借料	5,009	22,047	27,056	7,012	7,012		34,068
工事請負費	0	14,674	14,674	7,100	7,100		21,774
原材料費	0	0	0	546,598	546,598		546,598
生物購入費	0	14,742	14,742	0	0		14,742
支払負担金	0	3,145	3,145	1,642	1,642		4,787
租税公課	3,001	45,477	48,478	40,947	40,947		89,425
退職給付費用	1,961	22,546	24,507	6,862	6,862		31,369
雑費	0	20	20	0	0		20
修繕工事負担金	0	305,046	305,046	16,403	16,403		321,449
県納付金	0	0	0	0	0		0
減価償却費	42	14,734	14,776	2,726	2,726		17,502

(単位:千円)

科目 \ 区分		公益目的事業会計			収益事業会計		法人会計	合 計
		公1 文化 振興 事業	公2 水族 館事 業	小 計	収1 水族 館売 店事 業	小 計		
② 管理費							18,684	18,684
役員報酬							1,610	1,610
給料手当							2,402	2,402
臨時雇賃金							0	0
福利厚生費							153	153
法定福利費							539	539
報償費							0	0
旅費交通費							552	552
接待交際費							20	20
消耗品費							730	730
燃料費							60	60
会議費							14	14
印刷製本費							514	514
光熱水料費							220	220
修繕費							200	200
医薬材料費							0	0
通信運搬費							437	437
広告宣伝費							0	0
支払手数料							320	320
保険料							588	588
委託費							5,905	5,905
賃借料							1,766	1,766
支払負担金							1,041	1,041
租税公課							68	68
退職給付費用							1,307	1,307
雑費							0	0
減価償却費							238	238
経常費用計(B)		98,271	1,921,259	2,019,530	1,032,165	1,032,165	18,684	3,070,379
当期経常増減額(A)-(B)		61,182	77,688	138,870	27,366	27,366	0	166,236
2 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計(C)		0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
① 固定資産除去損		0	0	0	0	0	0	0
固定資産除却損		0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計(D)		0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)		0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額(E)		0	10,524	10,524	△ 10,524	△ 10,524	0	0
当期一般正味財産増減額		61,182	88,212	149,394	16,842	16,842	0	166,236
一般正味財産期首残高		143,317	1,537,713	1,681,030	449,370	449,370	67,696	2,198,096
一般正味財産期末残高		204,499	1,625,925	1,830,424	466,212	466,212	67,696	2,364,332
II 指定正味財産増減の部		0	0		0		0	
① 一般正味財産への振替額		80,000	0	80,000	0	0	0	80,000
当期指定正味財産増減額		△ 80,000	0	△ 80,000	0	0	0	△ 80,000
指定正味財産期首残高		565,000	0	565,000	0	0	0	565,000
指定正味財産期末残高		485,000	0	485,000	0	0	0	485,000
III 正味財産期末残高		689,499	1,625,925	2,315,424	466,212	466,212	67,696	2,849,332

令和7年度資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書

(自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日)

1.資金調達の見込み

借入予定の有無 なし

2.設備投資の見込み

(単位:千円)

取得	事業番号	設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
	公2	年間パスポート用カードプリンター	660	自己資金
	公2	珊瑚礁の浅海・断崖・砂地水槽用デジタルサイネージ一式	1,009	自己資金
	公2	生態No.1～4水槽用デジタルサイネージ一式	1,430	自己資金
	公2	生態No.5～10水槽用デジタルサイネージ一式	1,889	自己資金
	公2	1.5tバッテリーフォークリフト	2,552	自己資金
	公2	コレクション水槽用クーラー2台	600	自己資金
	公2	調餌室冷蔵庫	660	自己資金
	公2	ライブ映像コントローラ	440	自己資金
	公2	イルカ用バースケール600kg(移動式体重計)	600	自己資金
	公2	バースケール用ジョイント80cm	150	自己資金
	公2	バースケール用表示機	225	自己資金
	公2	高压洗浄機	196	自己資金
	公2	水中掃除機	352	自己資金
	公2	ダイトコンテナ 1t用	220	自己資金
	公2	オーシャンシアター制御卓	5,500	自己資金
	公2	ナイトライブ用ライト追加	3,300	自己資金
	公2	なごみの海ゾーンライブ配信システム	9,218	自己資金
	収1	製氷機	2,000	自己資金
	収1	モラモラ什器(一括計上)	76,740	自己資金
		計	107,741	

3.特定資産残高の見込み

(単位:千円)

特定資産の区分	積立金の残高及び増減の見込み額			
	前期末残高 (A)	当期増加額 (B)	当期減少額 (C)	当期末残高 (A)+(B)-(C)
(1) 退職給付引当資産	477,944	1,881	0	479,825
(2) 助成事業積立資産	535,000	0	80,000	455,000
(3) 文化振興事業積立資産	58,346	0	0	58,346
(4) 施設設備修繕等積立資産	216,626	0	0	216,626
(5) 事業資金積立資産	213,765	0	0	213,765
(6) 緊急時対応積立資産	349,926	17,252	0	367,178
(7) 特定費用準備資金	767,524	80,710	220,446	627,788
第二期文化活動助成事業資金	(8,725)	(80,000)	(17,827)	(70,898)
水族館大規模修繕等準備資金	(758,799)	(710)	(202,619)	(556,890)
合 計	2,619,131	99,843	300,446	2,418,528

